奈良・春日若宮の南、新薬師寺 1305年8月26日の深夜、

して社会を考え始めるのだ。

◇月1回掲載します

ている。一例として、奈良の 安・鎌倉時代の芸能を対象にし

自拍子」を紹介したい。

動し、誰と競争し、どんな生活 芸能史が芸能そのものだけでな も芸能史研究者を名乗るのは、 の芸もない。歌って踊れる研究 多い。残念ながら、筆者には何 るんですか」と聞かれることが というと「何か芸事をされてい をしているのか。ライブはどこ ストはどういう集団・組織で活 く、芸能を行う人や社会につい ても研究する分野だからだ。 者は夢のまた夢である。それで ロックに例えれば、アーティ 「芸能史を研究しています」

## 芸能史を研究す るとし

山伏の延禅房が播磨公という僧郷である殺人事件が起こった。 も登場し、白拍子女であったこ は、春日若宮関係の史料に何度 る。変わった名前のこの人物 の住宅で起こったとされてい 公の縁者が延禅房を殺したの とがわかる。 だ。この事件は、春日若宮の拝 を殺害し、その報復として播磨 殿に勤める「メセ」という女性

う遊女とは区別される存在だ う女性芸能者である。白拍子舞 が、売春を行うという点で遊女 した。白拍子女は「今様」を歌 み回る芸で、12~13世紀に流行 は、歌を歌った後に足拍子を踏 白拍子女とは、白拍子舞を舞 ボーナスをもらえたらしい。 出るほか、祭礼や神事の際には 芸能以外の日常業務もこなした 寺僧に統括された。参詣者と神 官の取り次ぎをしているので、 方で、メセは拝殿の仕事と

どのように語り、記録し、評価 歌うのか。メディアはロックを はどんな場面でロックを聴き、 客が、どう振る舞うのか。人々

したか。それらを調べると、人

でどのように行われ、どんな観

々にとってのロックの意味や役

クを通して、若者や社会につい

割が何となく見えてくる。ロッ

て考えることも可能になる。

筆者はそれに近い研究を、平

の解明を目指す。著書に「中世の 応を分析し、文化・芸能の社会的機能 島県生まれ。川村学園女子大学准教 女〉」(京都大学学術出版会)。 授。中世の新興芸能に対する人々の反 つじ・ひろかず 1982年、鹿児



辻浩和

奉納して神を楽しませるために 残る。白拍子女は、白拍子舞を 子奉納をやめたところ、神が夢 は、興福寺の僧が拝殿での白拍 するのか。説話集「雑談集」に と同一視されることもある。 に現れて叱られたという説話が 白拍子女のメセが拝殿で何を

拝殿に仕えていたのである。 ようだ。拝殿の予算から給料が 同じく拝殿の組織に属し、興福 白拍子女は、巫女や神楽男と

許諾番号 18-3627

神人たちが神社の境内に白拍子に同席。 1319年には里人や はり宴席で起きたのだろう。メ 集まっていることからみて、や 述の殺人事件も深夜に僧たちが 慎処分になるところだった。先 6人を引き入れて酒宴をしたと 1307年には僧と神官の宴会 は思えないこともやっている。 して処罰され、メセも危うく謹

む事件 と言われた春日金玉は、京都ま出ているし、「名人の白拍子」 職場との関係だけでは語ること で出かけて貴族や武士の家を訪 酒宴の席で喧嘩をして死傷者が も行っていたのである。 近くの自宅を拠点に私的な営業 ができない。 れている。彼女たちの生活は、 いう「色好み」の家でも神人が セは拝殿に勤める一方で、職場 メセだけではない。春頼女と

能に流行が反映される理由、ひ ぜ白拍子舞も要求するのか。こ 様は巫女の神楽があるのに、な して芸能史研究者は、芸能を通 男性たちはなぜこんなに酒宴を を解明する必要がある。また、 いては人々の神に対する考え方 れに答えるには、神に捧げる芸 ら、いくつか疑問が生じる。神 解明しなくてはならない。かく と、酒宴での白拍子女の役割を するのか。当時の社交のあり方 こうした白拍子のありようか

子女」か

朝日新聞 大阪版夕刊 2018年7月26日(木) 掲載